

関西全体の航空需要拡大について考えるフォーラム（概要版）

< 基調講演 >

航空需要拡大に向けた関西 3 空港の最大活用

関西学院大学経済学部 教授 上村 敏之

- ・ 関西国際空港と伊丹空港のコンセッション成立後に、神戸空港をどのように一体運用のなかに組み込むのか。関西 3 空港の全体最適が図られるような一体運営の実現が必要である。
- ・ 関西 3 空港として、ビジネス需要をいかに掘り起こせるか。安定的な航空需要を確保するためにも、ビジネス需要を増やす政策の検討が必要である。
- ・ 関西経済全体の成長に寄与するため、関西 3 空港ができることは何か。空港は地域経済のためであり、空港とまちづくりは密接に関わっている。
- ・ 3 空港の役割分担はどうあるべきかについて、利用者やエアラインの視点から考えることが重要である。

< パネルディスカッション >

関西 3 空港の挑戦

コーディネーター： 関西学院大学経済学部 教授 上村 敏之

パネリスト： 神戸青年会議所 理事長 久武 伸之介
新関西国際空港株式会社 常務取締役 志村 格
文教大学国際学部 教授 小島 克巳

テーマ 1 「関空・伊丹コンセッションへの期待」

(久武)

- ・ 関西全体の活性化を考えたとき、神戸空港が関空・伊丹と競合する意味は全くない。地元市民として、都心から近いという地理的なメリットを生かした運営を期待したい。
- ・ 神戸空港をどう活用するかについての声が少ない。関空・伊丹が先に統合し、海外からの航空需要が増える中で、神戸空港の立ち位置をしっかりと持っておかなければならない。
- ・ 神戸空港の規制緩和とともに、国際都市や医療産業都市という神戸の知名度を生かしながら、航空需要拡大につながる活動を展開したい。

(志村)

- ・ コンセッションの目的は、関空の国際拠点空港としての再生・強化と関西全体の航空輸送需要拡大、関空債務 1 兆 2,000 億円の早期の確実な返済である。
- ・ 実施方針上は、神戸空港が民営化される場合に、関空・伊丹の運営権者が交渉できることになっている。この事業に関心を示している方々によると、神戸空港をどうするかは大きな論点である。

(小島)

- ・ コンセッションにおいては、運営会社に与える経営の自由度を上げ、いかに魅力ある投資案件にするかがポイントである。
- ・ 最も重要なのは、着陸料をはじめとする空港使用料の自由な設定。空港使用料の値下げ

につながる非航空系収入の活用に期待したい。

テーマ2 「関西3空港の最大活用～首都圏空港への挑戦」

(久武)

- ・ 今回のフォーラムのような機会を通じて、関西一円の多くの人と声を上げて一体となって動けば、よりよい結果が生まれるのではないのか。
- ・ 政官財が協力して各空港のメリットを活かす方策を考えることが、首都圏空港への挑戦につながる。

(志村)

- ・ 訪日旅行者は円安の影響やビザの緩和により順調に伸びており、関空における平成26年10月までの訪日旅客数の合計は、平成25年の暦年合計を既に上回っている。
- ・ 事業価値向上のため、経営統合に関する基本方針の範囲内でコンセッションに至るまでに我々ができることをやろうとしている。(関空におけるLCC第3ターミナルの整備と商業エリアの拡大。伊丹のターミナルビル改修など)

(小島)

- ・ 伊丹の最大限の活用に向けた今後の規制緩和に期待している。
- ・ 関空は、羽田、成田と差別化を図ることが重要である。
- ・ 神戸は、競合より3空港一体運用が望ましい。ただし、効率的な空港運営と魅力的なサービス提供に結びつくインセンティブをどうやって運営会社に付与するかがポイントである。
- ・ 空港の選択は市場に任せるべき。それが結果として事業価値の最大化につながり、運営会社による長期的に安定した空港運営につながる。

パネルディスカッション総括

(上村)

- ・ コンセッションによって、空港がどのように変わるのか。その変化が利用客やエアラインにとって明確にわかるぐらいのインパクトを持つものになるのかどうか。コンセッションを機に、ドラスティックに関西の空が変わることを期待したい。
- ・ 関空、伊丹のコンセッションに向けた準備が進む中で、神戸空港が取り残されないように、どのように組み込んでいくのか。関西全体の航空需要拡大に向けて何がベストなのかについては今後の議論に委ねたい。